

## 学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：地球規模のリスクに立ち向かう地域研究 ウクライナ危機に多角的に迫る

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

企画：地域研究委員会・地域研究基盤強化分科会

共催：JCASA（地域研究学会連絡協議会）

協力：JCAS（地域研究コンソーシアム）

3 開催日時：令和4年12月10日（土）14:00～17:00

4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）

5 開催趣旨：

令和4（2022）年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻は、現地の人びとの暮らしを破壊するだけでなく、地球規模での混乱をもたらしました。8ヶ月が過ぎようとする現時点でも解決の見通しはまだありません。混迷する世界をどのように理解したら良いのでしょうか。本フォーラムでは、コンパクトな解説をいくつも積み上げていきます。日頃、解説されている事象の背後にあることを前景化し、画面を入れ替えるように、総合的に現代世界に接近してみましよう。

6 参加人数：

講演者等：13名

その他の参加者：会場参加者17名、最大同時視聴者数128名

7 特記事項：

人間文化研究機構の地域研究推進組織ならびに地域研究学協会連携組織であるJACASおよびJCASAによびかけて、恒常的なオンライン公開授業体制を構築する予定である。一般社会への学界からのアウトリーチを学術会議がリードすることになる。